「諦めない、勇気の心で～障害者雇用の推進を～」

エプロン通信員　城間　ちえみ

春三月。一年の締めくくりにエプロン通信の原稿を書かせて頂き、身が引き締まる思いです。

今年は、私にとって人生の転機とも言うべき年でした。それは、自分には無理だと諦めかけていた社会貢献のチャンスを頂いたことです。

高校を卒業後、和文タイプ・写植・ワープロ・パソコンと自分なりにこつこつ目の前にある課題をこなしてきました。その間、結婚・子育てetc・・・！平凡な人生では決してなかったけど、支えてくれた家族、友人、そして、人生の師匠の言葉「生の力 ― ハンディ」を持つ人は“障害者”というよりも人生に挑戦している勇者である」「困難は、乗り越えるためにある」「自分を信じて、あきらめるな。勇気を持って、前を向いて進め」がなにより心の支えになり、私を社会貢献への恩返しの道に導いてくれたように思います。

一年半前、私は就職活動に励みました。何度も何度もハローワークに足を運び、色々なところを面接しました。面接官に「家庭はどうするの？具合が悪くなったらどうするの？」「あんまり就職活動すると、誰も相手しなくなるよ」とかいろいろ言われ、挫折しそうになりました。障害者の就職が困難だということは分かっていたけど身をもって体験し、こんなにも辛いものとは思いませんでした。しかし、この体験は私にとって本当に肥やしになりました。

今、私は縁あって、地域支援センター「あかとぅんち」というNPO法人で事務の仕事に従事させて頂いています。「あかとぅんち」は三障害者（精神・知的・身体）が対象の支援センターです。

自立支援法が施行されて障害者雇用が推進されていますが、障害者に世間の風は冷たく、厳しい雇用情勢となっています。こうした中、障害者の雇用を促進する制度として、特定就職困難者雇用開発助成金制度というものがあります。これは障害者を雇用した中小企業の事業主に対し上限はありますが、いくらかの補助を行うというものです。その制度を有意義に利用して障害者雇用をすれば、自立したいと就職活動している障害者は救われます。

社会が混迷しているこの時代だからこそ、障害者に希望を与えられる社会を作らなければいけないし、それは政治の課題だと思います。闇の中に一筋の明かりを照らし出す灯台のように、“自分を諦めないで、勇気を持って”頑張っている人が救われる社会の構築を望みます。

茶ぐわーゆんたく 59

宜野湾 化石発見！

「化石」というと 博物館など特別な場所でしか見られないというイメージですが 私たちの住む宜野湾にも化石は眠っています。

例えば普天満宮の境内にある洞穴からは「リュウキュウムカシキョン」や「リュウキュウジカ」という、数万年前に絶滅した鹿の仲間の骨が見つかっています それも一頭や二頭ではなく 約二百頭分です。宜野湾にも昔は鹿が住んでいたのですね。

動物だけでなく 人の骨も出ています 大山の洞穴では一九六三（昭和三十八）年 約二百～一万年前の人の骨が発見されました これは有名な港川人と同じくらいの古さで こんなに古い人の骨は国内でもほとんど見つかっていません。

ところで この大きな発見をしたのは小学六年生の男の子でした。道路のわきにある洞穴が建築工事で壊されるとき たまたま見つけたようです また 港川人を発見したのも、一般の人です このように化石の発見は 専門家だけではなく誰にでも可能性があることなのです。

昨年十二月大阪で 小学三年生の女の子が新種のエビの化石を発見して大きな話題になりましたね 新種の化石を発見するとその人の名前がつくようです あなたも新種の化石を発見して 自分の名前をつけてみる というのはどうでしょうか？

▲大山で発見された人骨のレプリカ（市立博物館所蔵）

▲鹿の頭とアゴの化石

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三―四四三〇